



温海嶽山頂からの眺め



滝の上に水現れて落ちにけり

— 後藤夜半

「古和清水」で喉を潤し、「一ノ滝」を見下ろす。「せせらぎの散歩道」から頂上を目指した。初夏の森には、緑のシンフォニーが響く。足元に沢繁縷が可憐に咲き、溪流には苔むした木の橋がいくつか掛けられ、「二ノ滝」、「出会いの滝」、「鶴見の滝」などの滝がある。溪流のほとりには、ひっそりと宝鐸草が俯き加減に姿を見せた。



泉湧きゆがみて戻る鱒の列

— 水原秋櫻子

聞こえる。声の先を辿ると、その音量からは想像もできない小さな鱒の姿があった。



温海嶽の清流



庄内俳句紀行

清水汲み 温海嶽を歩く

一年で一番日が長い頃になると早起きが楽しくなる。窓をあけると郭公の音が朝の空に響く。野鳥の音が聞きたくなり、温海嶽に向かった。

季語

清水・泉

(しみず・いずみ)
岩の間や地面から湧く水。その清冽さを言う。



白雨のみね降りわけてあつみ山

— 遷阿

温泉街のはずれにある温海嶽登山口には、温海川に流れ込む溪流があり、立金花がせせらぎの光を集め、その色を瞬かせていた。朝の爽やかな空気の中、日差しはすでに項を刺してくる。

川沿いに歩を進めると、苔むした大きな岩に清水が流れ、その水底に岩魚の姿を見る。傍の木々から声量豊かな囁りが

新緑には何よりも純白が似合う。稚児百合が囁き合い、雪笹が、笹のような葉に純白の星を瞬かせている。山毛櫨の森は、強い初夏の日差しを優しい木漏れ日に変える。その陽光に輝く樅の若葉はまるで花が咲くように開く。森では、大瑠璃や黄鶺鴒の声も響く。



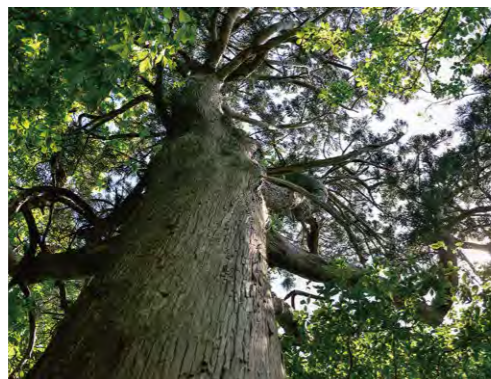
萬緑の底より水の湧き出づる

— あべ小萩

登山口から2時間ほどで温海嶽頂上に辿り着くと、熊野神社本殿がある。山頂からは日本海に粟島、遠くに佐渡が見える日もあるとか。この日はうつつすらと鳥海山、摩耶山の奥に月山が見え、朝日連峰、飯豊連峰を望む。山頂を渡る風が心地よく、その風と戯れるように蝶が舞っていた。

下山ルートでは、大きな山毛櫨や樹齢500年を超えると思われる「一本杉」、「大杉(婆杉)」の巨木に出会った。大杉の傍には熊野神社の旧拝殿跡が当時の跡を残していた。

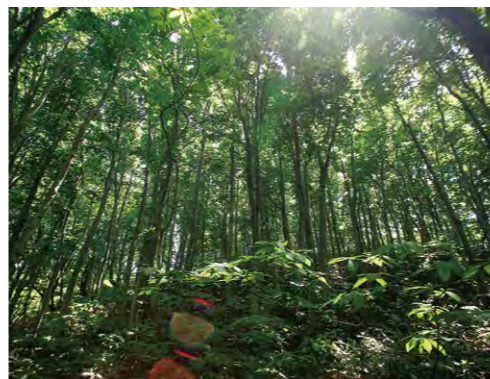
温泉街にあるバラ園に下山し、振り返ると、温海嶽がいつもより大きくどっしりとそこにあるように感じた。



一本杉



雪笹



山毛櫨林と樺

写真・文|| あべ小萩(月刊俳誌「月の匣」同人、俳人協会会員)
写真協力|| 間真由美